

・・・ 生徒数漸減下 地域の商業教育基幹校として ・・・

◆少子化に伴う高校教育の変化

少子化による日本の人口減少が顕在化して以来、経済・財政・地方自治等様々な分野でその影響が分析・確認され、その対策の為の提言や具体的施策が喧伝されるようになってきている。

高校教育分野についても、少子化による中学校卒業生数の減少や生徒の多様化、生徒や保護者、産業界からの高校教育に対するニーズの変化などが指摘されてきている。こうした状況に鑑み新潟県ではこれまで生徒数減少やニーズの変化に対応すべく、学校・学科の統廃合や募集学級数の削減、総合学科の拡充・中高一貫校の創設等の施策を講じて来た。

本校も平成10年に1学級減（5クラス募集）、16年に商業科4学級・情報処理科1学級の募集を停止し、総合ビジネス科4学級に学科改変し、実質1学級減（4クラス募集）の学級編成となった。更に平成30年に1学級減となり現在1学年3クラスの学級規模となっている。

昭和22年に工業科が本城町校舎（現上越総合技術高校）に分離独立して以来、商業独立校として戦後の生徒急増にあわせてクラス数が漸増し、昭和38年6学級募集となって以来、平成10年に1学級減の5クラス編成になるまで35年間6学級を維持してきた（一時的に63年に7クラス）。まさに現在の3クラス編成（半減）は隔世の感がある。

教育内容については時代の要求に応じてより実践的な試みから、平成12年にチャレンジ21教育推進事業を開始し（2年間）、17年にチャレンジショップ「Rikka」をオープンして開発商品の販売等を試み、その後継続して他校と連携しての販売実践や小中学校への出前授業などキャリア教育実践にも取り組んできた。平成19年には模擬格式会社「Rikka」を設立した。

本県教育委員会は令和4年度に「令和5年度～令和7年度 県立高校等再編整備計画」を策定・公表した。その内容は、生徒数の減少や高校に求められるニーズが大きく変わりつつある中で、魅力的な高校であり続けるための「あるべき姿」を示したものとなっている。（次ページ以降参照）

上記将来構想の中で、高等学校の教育活動を効率的に維持するためには、学級数は4～8学級が望ましいと指摘している。現在3クラスの本校においては単独校としてはギリギリの現状であり、将来を見据えて地域の商業教育基幹校として、より一層生徒・保護者、地域の要望に沿えるよう教育活動の充実を図っていく必要がある。

◆参考：令和5年度～令和7年度 県立高校等再編整備計画（抜粋／重点要約）

<基本的な考え方>

- (1) 「県立高校の将来構想<※1>」の「3つの基本方針」を踏まえた魅力ある学校づくりを目指し、本県独自の新たな「5つのタイプの高校」を順次設置していく。

【3つの基本方針】

- ◇ 様々な分野で活躍できるグローバル人材を育成する教育の推進
- ◇ 県外の生徒も学びたくなる魅力的な学校づくりの推進
- ◇ 地域との連携を深化させた人づくりの推進

【高校の5つのタイプ】

- ◇ 専門分野を探究する高校
- ◇ 学科総合型の産業高校
- ◇ 大学進学を重視した学究型の高校
- ◇ 総合選択制の高校
- ◇ 柔軟な学びを可能とする高校

※1 平成16年策定・公表「これからの10年間を見据えた新潟県の高校再編整備計画」

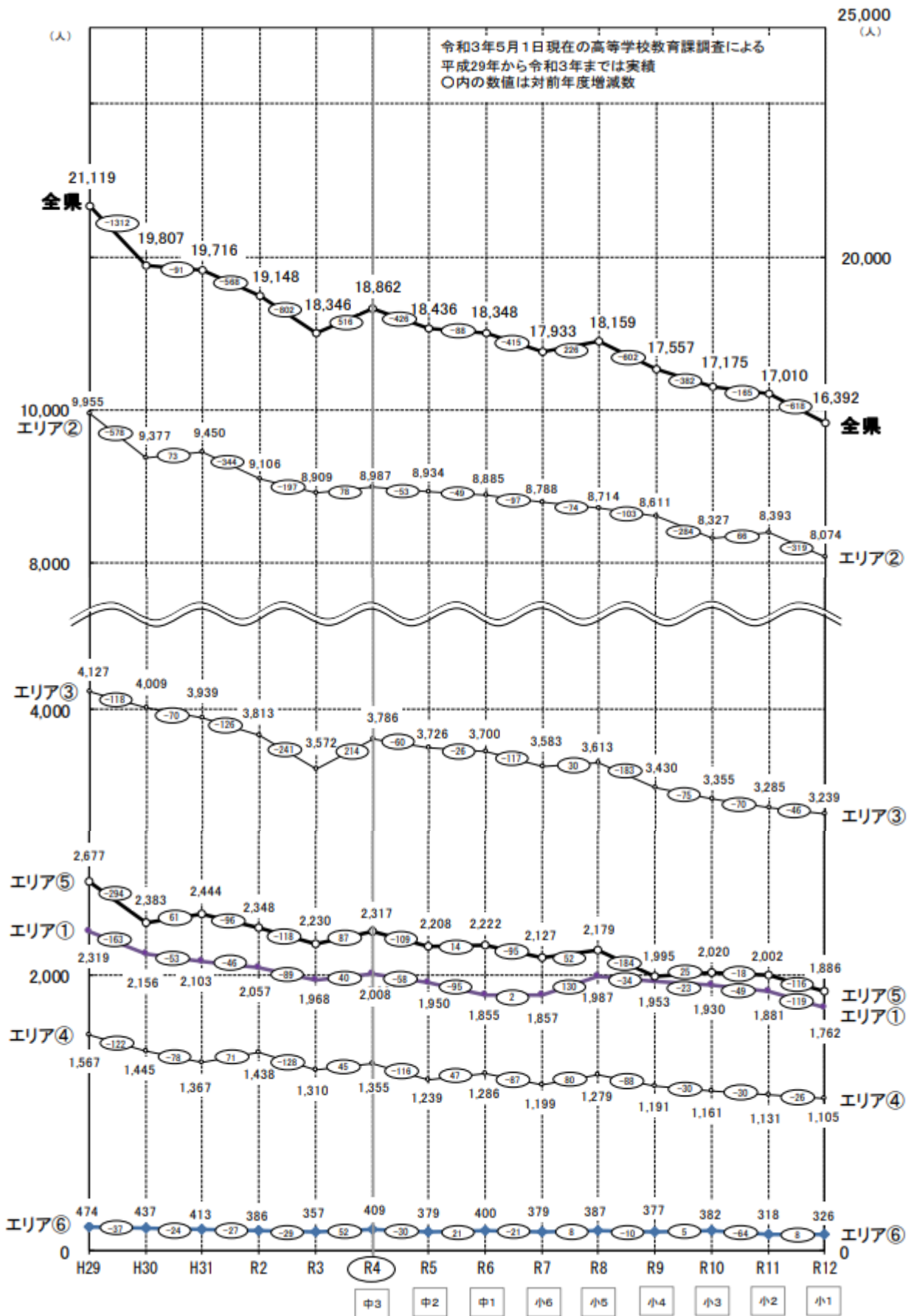
- (2) 県内を6つのエリアに分け、そのエリアごとの中学校卒業生数及び他エリアとの生徒の流出入状況等を勘案しながら、募集学級数の見込みを検討する。
- (3) 1学級あたりの生徒数を40人とし、1学年あたり4～8学級を望ましい学校規模として教育の質的な向上と学校の活性化を図ることを基本とする。

【1学年あたり4～8学級のメリット】

- ◇ 多様な人間関係の中で切磋琢磨する機会が増えること
- ◇ 各教科で一定の教員数を確保できるため、一人一人の興味・関心や進路希望に応じて選択できる科目が増えるとともに、新しい高等学校学習指導要領で重視されている教科等横断的な学習がより一層充実すること
- ◇ 多様な部活動の設置や部員数の確保が可能となり、部活動が充実すること

- (4) 小規模校においては各学校における教育の特色化について、市町村や地元企業からの協働の提案等も踏まえて学校が取組を進め、その取組状況や、志願状況、入学状況、卒業生の進路状況等を評価しながら、地域の交通事情や地元生徒の入学状況など地域の特性も踏まえて、小規模校のあり方の検討を進める。なお、「新潟の未来をS a G a S uプロジェクト」をとおして、遠隔教育や地域協働などによる、小規模校の教育環境の整備について研究を進める。
- (5) 生徒の多様な教育的ニーズに的確に応じるため、定時制課程や通信制課程をもつ高校のあり方について調査・研究を進める。

<エリア別中卒者推計>



<エリア市町村>

エリア⑤	上越市、妙高市、糸魚川市
〃 その他	省略

出典：新潟県教育委員会